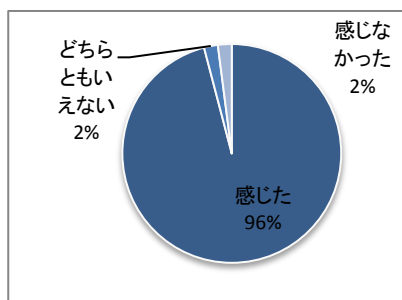


平成28年度「身近な人権講座」アンケート集計結果

開催日時	参加者数	アンケート回収
平成28年6月23日（金）	65	49

1 本研修会は「必要」と感じるものでしたか？

感じた	どちらともいえない	感じなかった
47	1	1



- 知らない間に障がいのある人と距離をとっていることがあるかもしれない、合理的配慮の気づきなどを再認識することができた。
- 「見守り」と「声かけ」は反対みたいだが、どちらも大事
- 障がいのある人やその家族の困難さや気持ちを知ることができた。
- 障がいということの理解が必要なので、研修することで理解できる。
- 障がいのある人の側に立ってのお話を初めて聞き、考えさせられました。身近にこんな人がいませんでした。
- 障害者差別解消法についてよくわかりました。
- 一生懸命さ、前向きさに感心した。
- 障がいのある人の生の声を聴くことができ大変勉強になりました。当事者のお話であったのでとても説得力があり、今後の活動にすぐに役立てたいと思いました。
- まだまだ障がいのある人に対する接し方が分からない人が多いと思うので
- 実際にどういふことに困難を感じているか分かった。いろんな事例を多く知るとより分かりやすくなると思う。
- お互いの思いやり、困っていることの発信やそれを理解するということが大切。又はその逆で、声かけ及びそれに対する受入れなど。
- 色々な研修会や講座に出席しても、まだ知らないことや気づいていなかったことがたくさんあるので、白杖を上げる仕草が助けを求めるサインだと初めて知りました。
- 障がいのある人の置かれている状況の話聴いて改めて家族の生活が大変なの分かってきました。川野陽子さんのお話を聞いて、よくがんばって生活しているなあと感心しました。
- 健全な私たちはどんな小さなことも気づくことができず、このような勉強会を持つことで、さりげなく思いやりを理解できた。問題点があること、また差別解消法のことを知るきっかけになった。
- 川野さんの話を聞いて、共存する社会を作りたいと思った。
- 別府市では障がいのある人に会うことが多いように感じます。大久保さんや川野さんのお話を聞いて改めて積極的に関わっていきたいと思いました。川野さんは本当に周囲の人に恵まれていいですね。ご自身の力でしょね。
- 障がいのある人もしてほしいことを発信してくれれば手助けできる人がいる。まずお互いが勉強していく必要もある。
- 身近に障がいのある人がいないので、実体験が聞けてよかった。
- 障がいのある人への対応として何が望まれているのかが聞けた。
- 事例の中に白杖を上上げるのは、助けを求める合図ということを知らなかったため、1例として勉強になりました。障がいのある人たちから声を出していただければ助けになると思います。
- 障がいのある人を特別扱いしなければならないのか。
- 障がいのある人の行動が少し理解できるようになった。

- 川野陽子さんの話を聞き、障がいのある人の思いを直に聞き、素晴らしい生き方をしている、できるのだなあと感じた。私たちも手助けができることを少しでもしたいと思う。その方の立場に立って考えることが大事と思う。知らない人が多いので、ぜひまたこのような時間をつくって多くの人々に広めてほしいと思う。
- 障がいを持っている人から直接話を聞くという機会はなかなかないので、必要だと思った。
- わが身に置き換えると障がいを持った孫と姪の子供がいます。身近に感じました。
- 平素からの人権、障がい者問題に積極的に啓発当に尽力されておられることに敬意を表します。しかし現実的に疑問を感じる事が多くあり、差別が多く見受けられます。表面的にはきれいごとが終わることが多くあります。

2 障がいのある人が地域で暮らすに当たったの問題、障壁などで思い当たるものがあれば記入してください。

- 町内全体で見守ってあげることが良いと思います。
- 近所にいるかどうか不明
- どこまでが障がいとして扱うのか？声かけしても不快な表情をする人もいる。
- バリアフリーの取組（段差をなくすように）
- 点字ブロックに物を置かない。
- 溝のフタのすき間に杖が入り、壊した人がいる。
- 道路のデコボコが多く、つまづく。
- 心ない言葉、差別的視線等
- 当地域には特別にない。
- 集会、イベントを企画しても会場に階段があったり、スペースが狭かったりと、なかなか声をかけづらいことが多い。
- 高齢の保護者が入院した場合の障がいのある息子さんへの対応
- 道路などがまだ整備されていないと思う。
- 特に精神障がいについては、知識のなさや逆に偏った知識、偏見などにより、怖いと感じている人が多いと思います。そういう人の雰囲気精神障がいのある人は感じとり、疎外感を感じるのだと思います。車いすに乗っている、杖をついている、自分らと違う様子であるだけで、どう接したらいいかわからない人が多いことも川野さんの話でよく分かりました。
- 道路の段差、すべりやすいところなど、ハード面の改善が必要な所があるので、担当部署の人（道路他）など色々な方面の人たちと共同して考えるべきだと思う。
- どう接していいかわからず、見守りはできても手を貸すことができない人が多い。
- 見ただけで障がいがあると分かる人にはそれなりの対応ができるが、見ただけでは障がい者が健常者かわからない人には対応が難しい。どう見守っていいかわからない。
- トイレや道路など公共の場所では障がい者の使用できる場所が少ないと感じます。
- 住民側の理解、障がいのある人への声かけがなかなか実行できない。

3 その他研修全般について、ご意見があれば記入してください。

- 障がいのある人の体験を聴いて、安心して暮らせる道が開けてくると思いました。
- 小学校、中学校等心の素直な時にこういう機会を持つといいかなと思う。
- 先日新聞で見たのですが、障がいのある人は両親、子ども、兄弟が見るが、もし親などがなくなった場合は心配です。障がい施設等別府市だけの施設がほしい。
- 有意義な研修であった。知らないことも多い私ですが、これからも前向きに頑張っていきたいと思いました。
- 毎回当事者の方の生の声を聴けたら嬉しいです。川野さんの話で「ともに生きる条例はみんなで作った大切な条例です」とあったので、もう一度読み返し、地域の皆さんにも紹介したいと思います。
- あいさつを心がけていきたいと思いました。
- 大久保さんの親としての気持ちを警察の人にも言いづらかったという話に胸が痛みました。法も整備したことだし、小学校や中学校でも今日のような研修というか、対象の子どもの年齢に合うようなお話をしてもらえるといいなと思います。大人の意識を変えるのは難しい。でも、子どもは教育次第で育っていく存在だと思うので。
- 障がいのある人と出会ったら声をかけて、困っていたら手助けをするよう心がけたいと思います。
- 障がいのある人の生活はまだまだ困難な社会だと思います。もう少し住みやすい社会になってほしいと考えています。
- 精神障がいのある人を知るのは難しいと思います。体の障がいは、見れば理解でき、心にも思いやりができます。しかし、一緒に働いている精神的なものは理解しにくいもので、そのことを聞くこともできず、健常な人と同じように接しているが、ときとして仕事場の問題になったりもします。
- とともに生きる条例の解説を理解できた。
- 声かけは大事だと思いました。
- 今日は出席できてよかったです。良い経験をさせていただきました。
- やはりまだ障がいのある人を受け入れる知識がなく、差別的な対応をしてしまいそう。今日のような啓発活動はとても大切だと思います。
- このような事例を多く提示していただきたい。
- 相手の気持ちを察することは難しいと思うが、少しでも声かけをして、相手の気持ちを感じることができればと思う。
- 今日直接障がい者の話を聞いてよかったです。このような会に出席されて意見を言える機会を作っていただいてありがとうございました。
- 同じような話でも、一度より二度聞くことによって理解につながるように思う。
- 今後とも多くの啓発活動を行い、民意の正しい理解が必要です。